

# COLUMN



社団法人口シニアNIS貿易会・ロシアNIS経済研究所 次長  
服部 倫卓

## 地域総生産で見るロシアの経済地図

### 大きな地域格差

ロシアは、全国83の地域から成る連邦国家です。各地域の経済力は、ロシア統計局が発表している「地域総生産」という指標によって知ることができます。地域総生産というのは、国内総生産(GDP)を地域別にブレイクダウンしたもので、我が国の「県民所得」に相当する指標です。

さて、最新の2007年の統計によれば(以下では、読者の皆様に分かりやすいよう、米ドルに換算して示します)、ロシア平均の住民1人当たりの地域総生産は7,775米ドルでした。83地域のうち、1人当たり地域総生産が最高だったのはチュメニ州の32,427米ドル、最低だったのは Ingushetia の 1,169 米ドルでした。実に、約28倍もの格差があります。なお、チュメニ州というのはロシアの石油・ガス生産の太宗を担っている西シベリアの地域で、経済力が突出しているのもうなずけます。

我が国の場合、内閣府発表の2006年度1人当たり県民所得を見ると、最高の東京都が482万円、最低の沖縄県が209万円でした。格差は約2.3倍です。もちろん、日本の地域格差も改善の余地がありますが、ロシアの格差は日本とは比べ物にならないくらい大きなものなのです。

当資料は、情報提供を目的として作成した参考資料であり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、当社が信頼できると思われる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性及び完全性を保証するものではありません。当資料中の第三者のコメントは著作個人の見解であり当社の運用方針等とは関係無く、また、その内容について当社が責任を負うものではありません。当資料の市場見通し及び金融指標等に関する予測値について、当社が将来の結果を保証するものではなく、また将来予告なく変更されることがあります。当資料中のいかなる情報も将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまで参考として述べたものであり、その銘柄または企業の株式の売買を推薦するものではありません。当資料に関する著作権は情報提供元のクレジット記載があるものを除きすべてドイチェ・アセット・マネジメント株に属しますので、当社に無断で資料の複製、転用等を行うことはできません。 D-090630-5



# COLUMN



## 極東は豊かか？

ただ、ロシアの地域総生産の統計を見る際に、注意しなければいけない点があります。たとえば、日本から近い極東連邦管区の諸地域について考えてみましょう。一般に、ロシア極東の諸地域は、経済発展の立ち遅れた未開の地というイメージをもたれています。ところが、極東各地域の1人当たり地域総生産は概して悪くない数値であり、全国平均を上回っているところもあります（サハリン州21,518米ドル、チュクチ自治管区16,476米ドル、サハ共和国10,139米ドルなど）。

実は、これには単純なからくりがあります。ロシアで強みがあるのは鉱業、林業、漁業等の一次産業なので、それらを抱える辺境地域の総生産額は、意外に小さくありません。他方、そうした地域は人口が希薄なので、1人当たりのデータを弾き出すと、どうしても数字が膨らんでしまいます。残念ながら、一次産品を産出しても、地元に落ちるカネは一部にすぎませんから、こうした地域は現実には、統計の見かけほど「豊か」ではないのです。

## 存在感を増す中央連邦管区の諸地域

逆に、1人当たり地域総生産が存外に小さいのが、中央連邦管区の諸地域です。中央連邦管区は、モスクワを中心とするロシアのハートランドなのに、少し不思議に思われます。モスクワ市こそ、1人当たり地域総生産が25,175米ドルで、全国2位となっていますが、それ以外の地域がおしなべて全国平均を下回っています。そこそこ人口が多いわりに、資源をもたらす地域であることが、その原因と考えられます。

しかし、現在一番ホットなのが、まさにモスクワ以外の中央連邦管区の諸地域なのです。というのも、これらの地域は大市場のモスクワから近く、現在のところ労働コストもそれほど高くないので、外国企業の現地生産基地として脚光を浴びているからです。フォルクスワーゲンや三菱自動車が進出先に選んだカルーガ州などがその典型でしょう（1人当たり地域総生産は4,443米ドル）。建機のコマツは、ヤロスラヴリ州（同5,639米ドル）での工場建設を決めました。ウラジーミル州（同3,987米ドル）、トヴェリ州（同4,486米ドル）なども今後脚光を浴びることになるかもしれません。

